jyukyo dayori
住居だより
ひと と 空間 を科学する

日本女子大学 住居学科のニュースをご紹介します。

No.030
Jan.2019

topic 1

今回は、2018年 10 月20日 ～ 10月21日 に開催された第65回 目白祭（大学文化祭）
住居学科学生が中心となって結成された有志団体の展示の様子をご紹介します！

「ふらっとひろば」

住居学科有志　代表　戸梶 涼子

今年度の文化祭に参加した私たちの企画は、「ふらっとひろば」です。何もない“flat”な所から、人々が“ふらっと”立ち寄って空間を創っていく。そんなことをコンセプトに企画を創りました。

今回、文化祭に有志で参加したきっかけは、ある時「普段の課題で人の関わりや繋がりを考えているけれど、実際に何かする機会はないな」と思ったからです。設計課題などはその特徴から空想で終わる訳ですが、それは何だか寂しいなと。自由に企画を提案出来るのも学生のうちくらいだろう、という考えもあり、1 ～ 3年生に呼びかけました。結果として、12人のメンバーが集い企画を実現させることができました。

具体的には、私達は何種類かの材料をあらかじめ用意し、来場者にはそれらを使って空間を構成する作品を作ってもらいました。この企画は「空間デザイン基礎」という授業で私たち学生だけで取り組んだ課題を、今度は目白祭に訪れた人に参加してもらい、一緒に作っていくといったものです。授業の時と違うのは、私たちが事前に作った作品にも手を加えてもらい、作品と空間が時々刻々と変化していく、そういった「流れ」を作ることを新たに取り入れたことです。この新たな取り組みは大成功しました。

この「流れ」を取り入れたことで、とても自由な企画になりました。本来文化祭において、企画側は出し物の全てを把握し、来場者に情報などを提供する立場にあり、両者間にはギャップがあります。しかし、この企画だと両者とも空間・作品の完成を予想出来ず、同じ立場だと言えます。両者が一体となれることがこの企画の醍醐味です。ですが一方で、自由であるが故に抽象的な部分が多かったため、企画の準備ではメンバー間の意志疎通がとても重要でした。

当日はTwitterで企画の様子を発信し、変化していく空間を記録していきました。そのQRコードを印刷したカードを配っていたので、来場者の方々には帰宅後も企画を楽しんでもらえたのではと思います。企画側含め、多くの方に楽しんでもらえましたが、特にお子さんにとても楽しんでいたのが印象的です。保護者の方からは「ぜひ来年もまた」と嬉しいお言葉を何度も頂きました。

今回の企画では苦労することもありましたが、それが机上の企画と現実の企画との違いなのだと思います。このようなことを学生のうちに経験出来たのはとても有り難いことですし、改めて、ものづくりの魅力に気がつきました。

↓こちらのQRコードから企画の様子を配信したtwitter アカウントが見られます。

課題考案：鉄矢悦朗 先生(東京学芸大学)

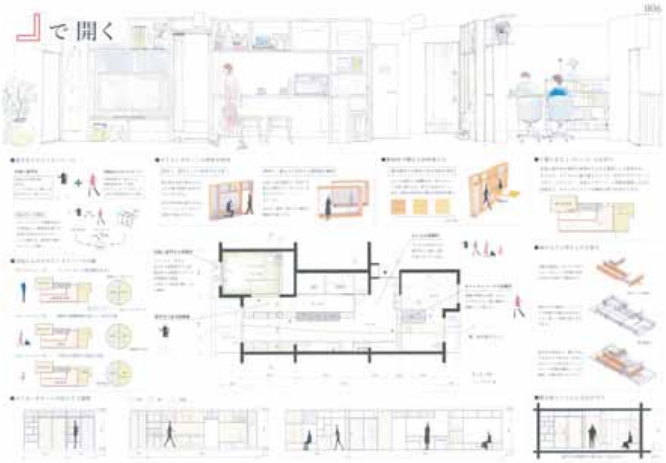
UR 賃貸住宅リノベーションコンペ JWU×HOSEI×CHIBA×JS

topic 2

「団地の新しい価値を見いだすリノベーションコンペティション」

今回のコンペ課題の対象団地は、JR武蔵浦和駅から徒歩圏内にある「浦和別所ハイツ」で、駅からは団地北側にある別所沼公園まで続く、「花と緑の散歩道」が整備されています。対象住戸は、3LDK、74.75平米の典型的なファミリータイプですが、現代の世帯構成の変化に対応して、居住者のイメージも家族に限らない自由な発想が期待されました。また、単に住戸の内部のリノベーションにとどまらず、「団地に暮らすことの新しい価値を見いだす」という観点から、「団地内のコモンスペース（集会所、プレイロットなどの外構空間）を活用した暮らし方」を提案することが求められました。

このJSのコンペは、すでに５回目となりますが、住戸内のインテリア空間への提案に限られていた前回までのこのコンペと比較して、団地空間全体を俯瞰したプログラム提案が合わせて求められた今回は、その意味ではハードルの高いものであったように思います。しかし、住戸のインテリアに留まらない視点がユニークな提案に繋がり、これまでに見られない社会性をもった、普遍性のある提案が選出されたと思います。とくに、最優秀にえらばれた「阿部・平井」案は、「ホストネーバーズ」というコンセプトのもと、ホストファミリーとシェアハウスの住人の関係をデザインして、新しい住まい方と同時に新しいコミュニティのあり方を示唆した優れた案と言えるでしょう。その他にも、一住戸の間取りから団地の景色を変えるような案など、充実したコンペになったと思います。結果としては、空間的にも、社会的に波及する効果を暗示する案が最優秀、優秀に選出されたことは、このコンペとしても大変、意義深いと思います。



最優秀賞

大学院 修士１年 篠原研究室
平井 未央さん　阿部 祥子さん

』で開く

ホストネイバーズと単身者が同時に利用できる仕組みを提案。ホストネイバーズは、オフィスや趣味の場など日中を中心に利用し、単身者と一定の距離を保った”ネイバー”となる。交流に段階を設けることで、いずれ団地の集会所など大きなパブリックまで交流が広がる。住戸内はそれぞれの領域の境界に、両面性を持つ棚を配置。ポリカーボネートの半透明性を生かし、棚の透明度に濃淡を設け、プライベート性を保ちつつ他者が共存できる。

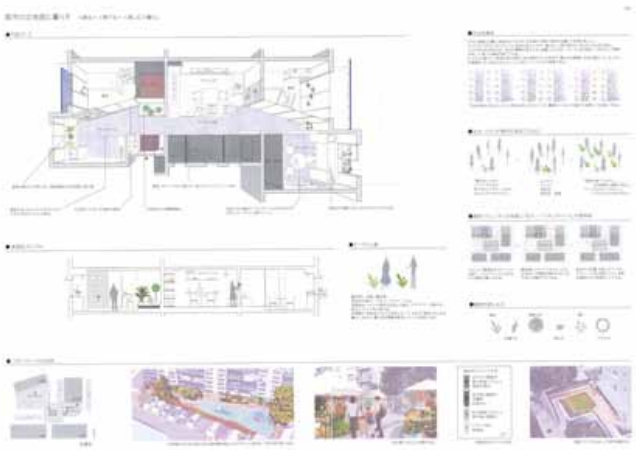
優秀賞

建築デザイン専攻 学部４年　篠原研究室
小林 春香さん

都市の立体庭に暮らす

＜飾る＞＜育てる＞＜楽しむ＞暮らし

団地に備わっている花台に着目し、「花台を飾る行為」が団地全体に広がれば「立体庭」が出来上がると考えた。園芸家とその見習いが、園芸ライフを団地内に広めていくための拠点となるシェアハウスを提案する。共用スペースでは鉢植えマルシェや育て方レクチャー、収穫物の持ち寄りイベントなどを行う。植物からの恩恵をシェアし、植物を通じたコミュニティを形成することで、団地に住むことの魅力を取り戻し、さらに引き出していく。



日本女子大学 JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY 住居学科 居住環境デザイン専攻 建築デザイン専攻
〒112-8681　東京都文京区目白台 2-8-1　TEL：03-5981-3452（住居学科中央研究室）
URL：http://mcm-www.jwu.ac.jp/~jyu-ishi/jyu/ui/course0104a.htm

バックナンバーをご希望の方はオープンキャンパスでお声掛けいただくか、左記の住居学科中央研究室にお問合せください。HPでも公開しています。